

【港北区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日 午前 10 時 00 分 ～ 午後 11 時 10 分
場 所	港北区役所 4 階 1 号・2 号会議室
出席者	<p>【座 長】佐藤祐文議員</p> <p>【議員 : 7 名】福地茂議員、大山しょうじ議員、白井正子議員、かざまあさみ議員、酒井誠議員、望月康弘議員、大野トモイ議員</p> <p>【港北区 : 21 名】竹下幸紀区長、酒井啓彦副区長、富田千秋福祉保健センター長、小野哲也福祉保健センター担当部長、澤木勉港北土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 6 年度個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>2 令和 7 年度個性ある区づくり推進費の執行状況について</p> <p>3 令和 8 年度港北区予算編成の考え方について</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 第三次港北区読書活動推進目標の策定について</p>
発言の 要 旨	<p>福地議員：</p> <p>港北区内でも、集中豪雨による局所的な道路冠水や建物浸水等の被害が発生しているため、線状降水帯を含む集中豪雨への対応、治水事業に力を入れてほしい。</p> <p>「無事故でカエル事業」について、来年 4 月に自転車の青切符制度がスタートする。近年、電動を含む自転車による危険走行が増えており、とりわけ子どもや高齢者の安全を守る視点で、自転車を運転する側への指導や啓発に取り組んでほしい。</p> <p>区庁舎駐車場の混雑については、料金が安価なことが一因と思う。区役所利用者は駐車料金が減免されるため、利用者を優遇する観点からも、区庁舎の駐車料金は周辺より高いくらいが妥当と考える。料金が周辺と同額または安価である場合、民業圧迫となること、また区役所利用者が駐車できないという観点から見直してほしい。</p>

竹下区長：

豪雨被害については、ご指摘を頂いたとおり、区民お一人おひとりの生活目線で考えてまいりたい。

自転車のマナーについては、区民からもご指摘の声を頂いており、来年度に向けて啓発が必要と考えている。

区庁舎駐車場の利用料金についても、ご指摘を踏まえて考えたい。

吉田総務課長：

区庁舎駐車場の利用料金については、今年度に一部値上げをしているが、なお混雑が多いと認識している。頂いたご意見を踏まえ、周辺の駐車場料金も見ながら、適正な価格について市民局と検討したい。

安達地域振興課長：

先日の港北警察署協議会でも、今年度、自転車のマナー改善に重点的に取り組むことが示されている。港北警察署もマナー向上の取組を進めるところであり、区としても、できることをしていきたい。

清水土木副所長：

集中豪雨による局所的な被害については、引き続き、何ができるか検討を進めたい。

福地議員：

冠水等の対策については、数年前にも「ます」が増設されているが、引き続き検討してほしい。

大野議員：

令和6年度決算に「授乳室の設置」とあるが、どこに、どれくらい増やしたのか伺いたい。

吉田総務課長：

健診会場に個室型授乳室を1台設置した。カーテンで仕切る授乳スペースもあるが、安全面への不安の声があったことから、新たに導入したもの。

大野議員：

健診会場ということは、区役所のみに設置したということか。

吉田総務課長：

区役所 1 階の健診会場にのみ設置した。

大野議員：

地区センターには、授乳室は設置されているのか。

安達地域振興課長：

設置している。

大野議員：

初期育児期の外出が孤立防止につながるという観点からも、授乳やおむつ替えのスペースが公共の場にあることは重要と考える。引き続き、取組を進めてほしい。

「令和 8 年度予算編成の考え方」について、「子ども・子育て世代、高齢者、障害のある方など、誰もが安心して自分らしく暮らせるように」との視点は素晴らしいと思う。外国籍の方についても、区民・市民であるという視点を忘れずに予算編成にあたってもらいたい。

吉田総務課長：

外国籍の方に向けては、例えば外国語版防災マップなどを作成しているが、令和 8 年度予算においても、ご指摘の視点をしっかりと意識して取り組みたい。

大野議員：

災害時など困った時に助け合えるような取組を進めてほしい。

大山議員：

令和 7 年 3 月の横浜市地震防災戦略の改定を受けて、区が取組として顕著に打ち出した点や変更点、方向性等があれば伺いたい。

竹下区長：

改定が令和 7 年 3 月であったため、令和 7 年度予算には十分に反映されていないが、令和 8 年度に向け、浸水リスクや帰宅困難者への対応など、区として何ができるのかを検討したい。

大山議員：

地域防災拠点倉庫の段ボールベッドの回収とワンタッチ式ベッドの配備について、進捗及び回収した段ボールベッドの取扱いを伺いたい。段ボールベッドの継続利用も可能か。

吉田総務課長：

ちょうど本日、全拠点の置き換えが完了している。段ボールベッドについては、残したいとの意向がある拠点では、引き続き活用していただいている。ワンタッチ式ベッドは、保管スペースが段ボールベッドの3分の1程度のため、配備台数を5台から10台に増やしたうえで、スペースを3割程度削減できると考えている。

大山議員：

「戸籍課案内サービス向上事業」に関して、近年、カスタマーハラスメントへの関心が高まっており、ポスターの掲出などもされているが、来庁者及び職員の状況について伺いたい。

竹下区長：

職員のワークモチベーション調査結果において、一部、カスタマーハラスメントへの不安の声を聞いている。ポスター掲出等を通じて職員を守る取組を進めるとともに、職員の対応能力の向上が必要と考えている。

平田戸籍課長：

直近では、カスタマーハラスメントとしてカウントするような事案は生じていない。

大山議員：

猛暑への対応として、子育て支援拠点や地区センター等がクールシェアスポットとして指定されている。区においても、地域に根差した視点から、広報等を通じたPRをお願いしたい。

竹下区長：

区のホームページでの発信なども考えたい。

かざま議員：

「放置自転車対策事業」について、放置自転車の問題は駐輪場の不足が一因と考えている。昨年度、日吉駅周辺では新たな駐車場の設置が困難ということで、既存駐輪場の利用区画の見直しや周辺施設の有効活用を要望していくと伺ったが、その後の進捗を伺いたい。

安達地域振興課長：

日吉駅周辺については、引き続き放置自転車が課題となっている。自転車等放置防止推進協議会において地域の方との情報交換を行うとともに、所管局に対して適切な対応が図られるよう要望している。

かざま議員：

引き続き、対応を進めてほしい。

「児童虐待防止対策事業」について、区民向けの啓発グッズとは、どのようなものか伺いたい。

丸山こども家庭支援課長：

缶バッジやシール、ボールペンを作成し、チラシ配布と併せて啓発活動を行っている。

かざま議員：

啓発の内容はどのようなものか。

丸山こども家庭支援課長：

「叩いてはいけない」「体罰は法的に禁じられている」といった趣旨の啓発を行っている。

かざま議員：

「保護者向けの児童虐待予防啓発」のグループミーティングについて、参加者はどのような思いで参加されているのか伺いたい。

丸山こども家庭支援課長：

子育ての悩みを抱えながら打ち明ける機会の少ない方に、支援の一環として参加をお勧めしている。中には虐待の不安を抱える方もおり、その場合は助言を行うほか、参加者同士の意見交換を通じて支援につなげてい

る。

かざま議員：

啓発については、児童虐待を早期に発見するための取組も重要と考える。虐待の通報先が分からない方や、通報してよいか躊躇する方も多いのではないか。チラシ等に「小さな情報でも通報してほしい」といった趣旨と「189（いちはやく）」などの連絡先を掲載して周知することなども検討してほしい。

丸山こども家庭支援課長：

虐待に関する通報件数は増えていることから、体罰を防止しようというお気持ちの方が増えてきていると感じているが、ご指摘を踏まえ、引き続き取り組んでいきたい。

白井議員：

「災害に強いまちづくり推進事業」について、港北区災害対策本部にバッテリー機器を配備したとあるが、具体的な内容を伺いたい。港北区役所は浸水想定区域に位置することから、VPP（バーチャルパワープラント）の形で各階に蓄電池を設置していると承知しているが、今回のバッテリー機器との関係や、非常時の電源対策について伺いたい。

吉田総務課長：

VPPについては、区庁舎2階から4階の各フロアに設置している。新たに導入したポータブルバッテリーについては、充電して持ち運びができ、必要な場所で使用できるものとなっている。地下に非常用発電設備があるが、VPPやポータブルバッテリーなど、複数の電源を確保することが必要と考えている。

白井議員：

青葉区庁舎の浸水対策として止水擁壁が導入されるが、港北区庁舎において、地下の非常用電源の浸水対策がどうなっているか伺いたい。

吉田総務課長：

他区における止水板等の導入事例も参考に、何ができるかを検討しているが、具体的な設置には至っておらず、引き続き検討したい。

白井議員：

根本的な浸水対策も必要と考えるので、検討してほしい。

望月議員：

令和6年度自主企画事業費の差引理由に「保育協力者謝金の減」とあるが、背景を伺いたい。

丸山こども家庭支援課長：

当初、100回程度の保育協力が必要と見込んでいたが、別途局予算で実施したものもあり、実際の利用が半分程度ですんだことによるもの。

望月議員：

「災害に強いまちづくり推進事業」における区災害対策本部のＩＰ無線機と公用スマートフォンについては、誰が使用する運用となっているのか伺いたい。

吉田総務課長：

公用スマートフォンについては、総務課長、防災担当係長及び災害対策に関わる職員が常時携帯し、連絡体制を確保している。

ＩＰ無線機については、災害時に外出先等の必要な場所で活用できるよう、50台配備している。

望月議員：

「令和8年度港北区予算編成の考え方」における「予算編成の視点」について、区民意識調査の結果を踏まえ、最も重要な視点として盛り込んだ内容は何か、伺いたい。

竹下区長：

区民意識調査を詳細に分析した結果、安全・安心、防災に関するニーズが、地域や世代を問わず最も多く望まれているため、これを1点目の施策として位置づけた。

2点目は、子育て世帯や高齢者世帯など、それぞれに事情が異なることから、多様化するニーズにしっかりと対応する視点を重視した。

3点目は、未来志向で行動変容を促す視点が求められていることを踏ま

え、積極的に取り組む思いを込めた。

区民意識調査は4年に1回実施してきたが、今後、アウトカム指標に基づく区民評価をよりの確に把握するため、間隔の見直しも考えている。我々の目線でのアウトプットではなく、区民の評価を踏まえた予算編成、執行、決算が必要と考えている。

酒井議員：

「まるごとまちごとハザードマップ」については、来年で整備が完了するが、設置後の区民の反応を伺いたい。

吉田総務課長：

区民からは「ここまで水が来るのか」「勉強になった」等の声を頂いている。一部、自宅前に表示があるのは不安とのご意見を頂き、撤去したケースもあるが、概ね好意的に受け止められている。

酒井議員：

秋には防災訓練が多く実施されるが、風水害への意識向上も必要と思うため、区民や地域防災拠点への啓発に努めてもらいたい。

大野議員：

「第三次港北区読書活動推進目標」について、読書は知識の習得や言語能力の育成に重要であるため、読書機会の確保にしっかり取り組んでほしい。目標についてだが、本を増やすといった内容ではないということか。

富田読書活動推進担当課長：

蔵書を増やすという形にはなっていないが、本を増やしてほしいとのご意見も踏まえ、図書館とも連携して蔵書の充実を図りたい。

大野議員：

パブリックコメントに「本が少ない」との声があるが、「まちライブラリー」については、港北区にどのくらいあるのか伺いたい。

富田読書活動推進担当課長：

手元に資料がなく、お答えできない。

	<p>大野議員：</p> <p>「本との出会いマップ」の改訂について、内容を伺いたい。区内には「まちライブラリー」や蔵書のある地域の居場所もあるため、それらも掲載してほしい。</p> <p>富田読書活動推進担当課長：</p> <p>「本との出会いマップ」については、身近に本と出会える場所を紹介する趣旨で作成している。改訂内容は今後検討するが、頂いたご意見も踏まえて検討したい。</p> <p>大野議員：</p> <p>「まちライブラリー」に相当するような場所について、より多くの事例をマップに掲載していただきたい。</p> <p>また、改定後のマップは保育園や子どもの居場所等にも置いて、積極的に活用してほしいが、いかがか。</p> <p>富田読書活動推進担当課長：</p> <p>多くの方に知っていただきたいという思いは同じであるため、配布場所等について工夫したい。</p>
備 考	